



ミント学習教室とマイイングリッシュによる実践教育研究発表には 多くの先生が詰めかけた

真夏の太陽が照りつける南国九州の福岡でワールドコールド2008が開催され、欧米やオーストラリア、アジアや中東から英語教育に関わる先生方が参加し、コンピュータによる授業の紹介や研究発表を行なった。

ミント学習教室の田淵先生とマイイングリッシュのマイク先生は、昨秋以来の実践教育「フォニックスライム」の研究発表を行った。多くの参加者が興味深く授業風景の映像に見入っていた（写真上）。

フォニックスライムの成果を発表



従来のフォニックス教育が日本人児童には不向きであることから、音声重視の手法「フォニックスライム」教材を開発し、授業を通して改良を積み重ねながら、生徒たちが英文をなめらかに読み上げていくまでの様子紹介されていった。

なめらかで抑揚のある読みが 会場に驚きと共感を呼ぶ

百聞は一見にしかずと言ふ言葉どおり、子どもたちの元気いっばいのきれいな発音と抑揚のあるリーディングが、フォニックスで苦

労されている先生方の共感を呼んだ。「私もフォニックスで教えています。一週間1回7分の訓練でこんなに素敵な発音が身につく

ワールドコールド2008に世界の先生が参加 8月5日〜8日 福岡



第2号

2008年8月12日(火)

発行所

ミント学習教室

〒370-0013 群馬県
高崎市秋原町 950-31
Tel/Fax 027-353-1091

紙面案内

記事	連載	特集
ワールドコールドでフォニックスライムの成果を発表	文科省「英語ノート」対二面 応 電子教材の諸要件	英語力に自信をつけるリスニング強化電子教材

ユーザーサポート
027-353-1091

m-Boxed やプレーヤーミント利用方法のお尋ねや教材のお問い合わせは電話で受け付けています

です。驚きました。」

実際フォニックスライムはリズムカナルでテンポのいいライムをほとんど発話する訓練なので、五分から十分程度が最適で、それ以上長く行なう必要はない。むしろ小学校のモジュールのように毎日5分くらいずつ行なうと効果的のように設計されている。

ネイティブのように音と意味から入る

日本の教育ではとかく音声が軽視されがちで、その理由の一つが「効率が悪い」と言われてきたが、電子教材を巧みに使うことで、言語本来の習得手順「音声」意味「文字」と自然に歩みをすすめることが可能である。

授業風景（小学4年）のビデオをネットで公開

http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/news/n20080803.html

ワールドコールドの様子や参加者の声はこちらのページ

http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/news/n20080809.html

研究発表の要綱、発表論文など詳細は以下のサイト

http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/let/k20080809.html

とが示された。最近の小学校英語では文字利用を忌避する傾向が強く、フォニックスの導入から「音声」意味「文字」の手順を踏んで入るという「積み」の導入から「興味」を持って文字に親しむ、興味を持って学習に意欲を持つこと

小学校英語向け電子黒板対応教材

文科省「英語ノート」対応 電子教材の諸要件



連載

ミント学習教室は、文科省の「英語ノート」公開を受けて、これからの小学校英語で利用される電子教材に要求される要件についての研究をはじめた。

その成果はこの秋にも英語学会で発表する予定だが、この紙面を借りて中間報告する。現在までに諸要件を以下の五つのポイントに絞ってきている。

1 音声重視

言葉はやはり音と意味から入ると言う原則

- 一、音声重視
- 二、ストレスフリー
- 三、クラスコミュニケーション形成
- 四、担任力を引き出す
- 五、自在な教材作成能力

は、小学生でも変わらぬ。シャワーのように音声を楽しむながら、その意味を絵や映像で提供していくと、日本語による説明は必要ないということが、この間の実践ではつきりしてきた。

特にリスミカルなチャントやマザーグース、ライムの唱和は子どもたちには気持ちのよい体験として、音声

2 ストレスフリー

これには2つの意味がこめられている。

コンピュータの存在を感じさせない、人の暖かさが出る授業であること。

生徒を評価しない。評価されていると言う印象を与えないで、トレーニングやテストを復習として行なえること。テストは序列化するためではなく、今後の授業方針を決定する資料を与えてくれるものであること。ゲーム感覚とも言つ。

言語としての英語への親密度を高めている。

5 自在な教材作成能力

の人間力にあることは電子授業においても変わりはない。電子的な機能に振り回されるのでは本末転倒。特に小学校英語では未経験者が担任なので、授業しながら自らもスキルアップする電子教材であることが必須条件となる。

2 耳トレソフト

筋が入ったところで

さらに会話シーンをピンポイントで何度でも再生可能。納得がいなくてもヒアリングができる優れたもの。

しむことから始める。場面や状況と切り離した会話表現では使えないからだ。(受験の知識の欠陥がここにある。) 気になる表現も日英同時字幕で英語と日本語で即確認できる。

3 データベース検索

ら語順整理、簡易書き取りへと自然にレベルアップされていく。はじめはなかなか聞き取れなかつた英会話も、章を進めるうちに確実にポイントアップしていくのがわかる。

3 クラスコミュニケーション形成

生徒個人が知識として知っているか知らなかっていかに、知っていることを相手に伝えて説得したり、知らないことを知るために相手の力を借りたりすること、人間力養成の一環としての語学授業を可能にすること。

教材は、担任と生徒をつなぐ大切な道具。それがお仕着せのものでは十分な成果はあげられない。教材は生徒の顔を思い浮かべながら仕上げるもの。少しの研修で身に付き、明日の準備が数分で終わるくらいの教材作成機能が要求される。

苦手意識克服に向けて豊富な仕掛け

高学歴で英語学習能力も高いのに、英会話が苦手と言う弱点を克服するための仕掛けを用意した。

1 日英同時字幕ピンポイント再生

英会話習得にはまず映画を見て筋を楽

英語力に自信をつける リスニング強化電子教材



通販特別価格 3,500 円

さつそくトレーニングに入る。問題も筋書き順に出題されるので、場面の表現が印象に残りやすい。一チャプター十分と切りがよい上に、聞き取りか

気になる日常会話の表現を映画の中から検索して、次々と鑑賞できる、世界初の機能(特許)だ。知っている表現をどんな場面で使えばよいかすぐに教えてくれる。

4 担任力を引き出す

授業の本質は、先生

お得情報

フォニックスライムのワークブック(プリント)を希望者にメール配信中(無料)。連絡はミント学習教室(027-353-1091 田淵)へ。